

信用金庫の16/3期決算の注目点

信用金庫各庫の16/3期決算を踏まえ、株式会社日本格付研究所（JCR）の現況に関する認識と格付上の注目点を整理した。

1. 業界動向

全国の信金265先の16/3期決算をみると、JCRが基礎的な収益力と評価するコア業務純益は16/3期で9期連続減少した。長期にわたる市場金利の低位推移と資金需要が盛り上がらないなか競合の激化などが貸出金利回りの低下を招き、収益の主要な圧迫要因となっている。貸出金利回りは16/3期で1.83%と前期比0.10ポイント低下した。13年4月以降、日銀が市場から大量の国債を吸い上げるなどして長期金利の低下を促し、16年1月には「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入が決定され、イールドカーブ全体の金利は押し下げられた。16年9月の金融緩和の総括的な検証を経て、新たな金融緩和の枠組み「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が導入されたが、このなかで提示された長短金利の操作目標は、現行の低い金利水準を踏襲する内容となっており、貸出業務からの運用収益が主たる収益源である信金にとっては、引き続き厳しい経営環境が続くとみられる。

このような環境下、貸出金利回りの低下に伴う収益へのマイナスの影響を打ち消すため、貸出残高の獲得競争は、地域銀行などを含め、業態の垣根を越え、激しさを増しており、このことが利回り低下に一層の拍車を掛けている。一方で、預金利回りは16/3期で0.09%と低下余地は小さく、調達コストの削減による収益下支え効果は限られている。

貸出残高（平残ベース）は16/3期で3期連続増加した。残高の増加ペースは、16/3期で前期比2.2%と回復してきたものの、利回り低下の影響が大きく、貸出金利息は減少している。貸出残高の伸びは預金残高の伸びを下回るため、預貸率（平残ベース）は16/3期で49.3%と同0.2%ポイント低下した。預貸ギャップの拡大を背景に、資金運用における有価証券や預け金などへの比重が高まっている。収益力を維持していくうえで余資運用を強化していく重要性も高まっているが、こうした収益にも、利回りに下方圧力が加わり、総じて、資金利益の減少基調に歯止めが掛からない状況が続いている。

一方で、最終利益ベースでは好決算が続いている。当期純利益はリーマン・ショック直後の09/3期に赤字を計上して以降、7期連続で黒字を確保。与信費用の低位推移と保有有価証券の売却益に支えられ、当期純利益は過去4番目に高い水準となった。16/3期の与信費用は貸出残高対比10bp内に収まり、金利低下や期初の堅調な株式相場などを背景に、債券や株式で売却益を確保する動きも活発であった。

自己資本比率はパーゼルの導入以降、13%台で推移している。内部留保の蓄積が進み、各種リスクに対する耐久力も高まっている。

2. 決算動向

JCRが格付を付与している信金の16/3期決算をみると、15先合算のコア業務純益は前期比で若干の減益にとどまり、約半数は増益を維持した。預金保険料率の低下に伴う物件費の削減効果が大きく、15先全先の物件費が減少した。貸出金利回りは低下幅にバラツキがみられるものの、軒並み低下しており、貸出残高の伸びが大きく、かつ利回りの低下を小幅にとどめた西武信金と苫小牧信金を除く13先が貸出金利息を減らした。有価証券利息配当金については、保有有価証券のアセット・アロケーションを見直す動きなどが実を

結び増収となった先は少なくないが、貸出金利息の落ち込みを吸収できず、13先が資金運用収益を減らした。17/3期はマイナス金利政策導入の影響が通期で反映されるうえ、預金保険料率の低下といった特殊要因もなくなるため、前期並のコア業務純益の水準を維持していくハードルは高いとみられる。

最終利益は15先合算で若干の増益。与信費用は増加した先が多かったが、貸出残高対比でかなり低い水準となっている。与信費用比率（与信費用÷貸出平残）が最も膨らんだのは西武信金で30bp台であったが、保守的な引当基準を導入した影響を除けば、与信費用はほぼゼロに近かったとみられる。保有株式の売却などで利益水準を大きく押し上げる先も散見された。

内部留保の蓄積が進む一方、リスク・アセットの拡大などの影響で自己資本比率は低下した先が多かったが、同比率は、最も低い先でも8%台と規制上の所要水準に対してかなり余裕がある状況が続いている。

3. 格付上の注目点

日銀による金融緩和が強力に推し進められるなか、資金運用収益への下押し圧力が強まり、資金利益が圧迫される状況は当面続くとみられる。近時は、貸出残高の伸びが回復し、また比較的利幅の厚い個人向けのカードローンなどを伸ばす動きも広まっている。有価証券投資では投資信託の運用ウェイトを高める動きなども顕著になっている。リスクテイクをコントロールしながら少しでも利幅の厚い資産を積み上げることで、収益への下方圧力を緩和していくことが、格付先共通の課題とJCRはみている。

与信費用は全般的に低水準にある。金融再生法上の開示債権比率も総じて低下傾向にある。保守的な引当方法の採用などにより、保全を強化する動きもみられる。当面は与信費用が高まる兆候はみられないものの、個別にみれば、業況に懸念がある大口融資先にかかる信用リスクなどの不安材料もある。中小零細企業が主たる融資先であるため、景況悪化局面では与信費用が想定外に膨らむリスクに留意する必要があるだろう。

総括すれば、内部留保の蓄積により厚みを増している資本が格付を下支えするであろうが、基礎的な収益力の低下という克服すべき課題は残る。事業基盤の拡大などを通じて、収益力を維持しつつ、利益を着実に積み上げている先には、前向きな評価もあり得るが、収益環境が厳しさを増すなか、利益の安定性が一段と低下している先や資本対比で過大なリスクを取っている先などに格下げを検討するケースの方がやや優勢になるだろう。

（担当）大山 肇・木谷 道哉

(図表1) 主要財務指標

(単位：億円、%)

	尼崎信用金庫		岡崎信用金庫		北おおさか信用金庫		京都信用金庫	
	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期
預金未残	24,702	24,704	27,492	28,284	13,279	12,998	23,597	23,713
貸出金未残	12,221	12,365	15,329	15,496	6,412	6,435	16,163	16,637
経常利益	83	95	101	71	20	39	50	66
当期純利益	61	66	76	57	14	23	35	48
不良債権比率	5.6	4.7	4.5	3.8	9.6	8.8	5.9	5.7
自己資本比率	17.7	17.1	13.4	13.1	10.5	10.8	9.0	8.2

	岐阜信用金庫		埼玉縣信用金庫		札幌信用金庫		芝信用金庫	
	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期
預金未残	22,044	22,534	25,479	25,891	4,875	4,919	10,620	10,785
貸出金未残	12,850	12,981	14,535	15,190	3,159	3,117	4,428	4,558
経常利益	88	102	79	51	25	24	31	24
当期純利益	74	89	59	37	17	18	19	14
不良債権比率	6.3	6.2	2.3	1.9	3.0	2.7	4.4	3.4
自己資本比率	10.5	10.8	9.5	9.3	17.3	17.9	13.4	12.7

	西武信用金庫		瀬戸信用金庫		東濃信用金庫		苫小牧信用金庫	
	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期
預金未残	15,452	16,436	18,640	20,624	10,323	10,427	3,738	3,838
貸出金未残	11,268	12,500	8,625	9,066	5,181	5,269	2,132	2,191
経常利益	94	60	47	51	39	35	25	24
当期純利益	64	74	36	35	27	26	17	17
不良債権比率	2.3	1.7	4.5	4.1	4.2	3.6	3.4	3.5
自己資本比率	10.1	10.1	15.5	15.4	16.7	16.8	26.1	25.9

	広島信用金庫		碧海信用金庫		稚内信用金庫	
	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期	15/3期	16/3期
預金未残	12,527	12,974	18,584	19,220	3,999	4,067
貸出金未残	8,471	8,774	9,704	10,064	893	891
経常利益	53	58	68	54	15	16
当期純利益	37	39	48	41	11	11
不良債権比率	3.6	3.3	3.5	3.3	5.3	5.2
自己資本比率	12.0	11.9	18.7	17.7	64.0	63.0

不良債権比率は金融再生法開示債権比率

(出所：各ディスクロージャー誌等から JCR 作成)

【参考】

発行体：尼崎信用金庫 長期発行体格付：A	見通し：安定的
発行体：岡崎信用金庫 長期発行体格付：A	見通し：安定的
発行体：北おおさか信用金庫 長期発行体格付：BBB+	見通し：安定的
発行体：京都信用金庫 長期発行体格付：A-	見通し：安定的
発行体：岐阜信用金庫 長期発行体格付：BBB+	見通し：安定的
発行体：埼玉縣信用金庫 長期発行体格付：A-	見通し：安定的
発行体：札幌信用金庫 長期発行体格付：A	見通し：安定的
発行体：芝信用金庫 長期発行体格付：A-	見通し：安定的
発行体：西武信用金庫 長期発行体格付：A+	見通し：安定的
発行体：瀬戸信用金庫 長期発行体格付：A-	見通し：安定的
発行体：東濃信用金庫 長期発行体格付：A-	見通し：安定的
発行体：苫小牧信用金庫 長期発行体格付：A	見通し：安定的
発行体：広島信用金庫 長期発行体格付：A	見通し：安定的
発行体：碧海信用金庫 長期発行体格付：A+	見通し：安定的
発行体：稚内信用金庫 長期発行体格付：A	見通し：安定的

留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であってもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル